

|   |   |      |       |
|---|---|------|-------|
| クラス   | QA309   | 担当教員 | 辻野 達也 |
| テーマ   | 深層心理学によるこころの理解と自己覚知   |      |       |
| 著書・論文<br>研究課題等  | <p>【著書】</p> <p>『心理療法の彼岸』 山本昌輝・青木真理（編著） 第8章「オキナワ体験によるスピリチュアリティの開け」（pp.101-140） 2012年 コスモスライブラリー</p> <p>『心理療法と祈り』 山本昌輝（編著） 第2章「祈りの実践場としての久高島留学センター」（pp.17-48）、第3章「祈りと身体の多次元性」（pp.49-72） 2018年 コスモスライブラリー</p> <p>【論文】</p> <p>「進行性筋ジストロフィー症患者の実存的葛藤とその援助の可能性に関する一考察」 心理臨床学研究第23巻3号 2005年</p> <p>「山村留学経験が子どもたちに与えた影響に関する一研究」 心理臨床学研究第28巻2号 2010年</p> <p>【研究課題】 身体の多次元性、スピリチュアリティ、自己実現・自己超越</p> |      |       |
| <b>ゼミナール概要</b>  |   |      |       |
| キーワード：ユング心理学、プロセス指向心理学、アウェアネス（気づき）、個性化の過程   |   |      |       |
| <p><b>目的と内容：</b></p> <p>本ゼミでは、深層心理学によるこころの理解と自己覚知を目的に、ユング心理学とプロセス指向心理学の基礎的な理論を学び、自分に対するアウェアネス（気づき）を促すワークを実践していきます。</p> <p>担当教員は、精神科および心療内科などの医療領域、スクールカウンセラーや学生相談などの教育領域、少年サポートセンターや刑務所などの司法・矯正領域で主に心理臨床に従事してきました。さまざまな領域で心理臨床を実践する上で通底していることは、深いレベルでのこころの理解とクライアントが自ら気づき、個性化の過程を歩むことができるための支援だと考えています。</p> <p>そこで、ユング心理学とプロセス指向心理学のワークを通じて、シンクロニシティ（共時性、意味のある偶然の一致）の視点から「内側で起こっていることと外側で起きていることつながり」「外側からの気づき」に関わられていくことで、自分自身および他者についての理解を深め、人生をより深く自分らしく生きられる個性化の過程の手がかりを得ることを目指していきます。</p> <p><b>授業計画：</b></p> <p>3年次には、ユング心理学とプロセス指向心理学の基礎的な理論を習得し、さまざまなワークを実践し、自分自身についてのアウェアネス（気づき）を深めていきます。また、ワークではグループワークやシェアリングを行い、自分以外の視点を取り入れ、他者を理解し、関係を築くことができるようになることを求めます。</p> <p>後期は、各自が興味関心のあるテーマを持ち寄り発表し、お互いに意見や考えを述べながら自分の研究テーマを明確にしていくことを目指します。</p> <p>4年次には、各自がそれぞれの研究テーマに沿って研究を進め、お互いの研究を発表し、ディスカッションしながら、お互いによりよいものに仕上げていくことを目指します。</p> |   |      |       |
| <b>担当教員からのメッセージ</b>   |   |      |       |
| <p>☆ゼミでは、卒業研究に取り組むとともに、ワークを通じた体験的な気づきと学びを大切にしてください。また、そうした気づきと学びに関心がある方の積極的な参加を歓迎します。</p> <p>☆心理臨床の実践を念頭に置いた内容となっていますが、単なる知的理解ではなく、「臨床の知」と呼ばれる生きた人間と向き合う上で必要な知を学ぶことを応援します。</p> <p>☆自分のことについて主体的に語ることもともに、他のゼミ生の語りや表現を聴き、お互いの意見や考えを尊重しながら、楽しく相互的に学んでいけることを期待しています。</p>   |   |      |       |